



# 令和7年度 悲願 特弔継続・増額

## 令和7年度 語り部1億円計上・洋上慰霊実現へ

政府は12月27日の閣議で令和7年度政府予算案を決定した。本会関係では、本部・支部が丸となって関係省庁、自由民主党選出国会議員等に陳情を重ねた結果、最重要事項であった戦没者等の遺族に対する特別弔慰金の継続・増額、「平和の語り部」事業の予算大幅増額、慰霊友好親善事業の洋上慰霊は船舶借上げが認められ、概算要求を超える予算額が計上された。

日本遺族会は、令和7年度政府予算に本会の要望事項が反映されるように、7月には全国戦没者遺族代表者会議、12月には全国戦没者遺族大会を開催し、地元選出の自由民主党国会議員、財務省、総務省、厚生労働省等関係省庁に対し陳情運動を展開した。

また、石破茂総理をはじめ加藤勝信財務大臣や福岡資厚厚生労働大臣など関係大臣に面会し、最重要事項について説明を求め、理解を求めた。そして、12月27日に閣議決定した令和7年度政府予算案には、本会が要望していた事項がすべて盛り込まれる結果となった。

## 令和7年度政府予算における 戦没者遺族処遇改善項目

- 1. 遺族年金等 (別表)
- 2. 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金等の支給 (事務費) 12億円
- 3. 遺骨収集事業等の推進

33億円  
(1) 遺骨収集事業  
① 硫黄島における遺骨収集事業 13億円  
② 海外等における遺骨収集事業 11億円

【実施地域】フィリピン、東部ニューギニア、ビスマルク・ソロモン諸島、インドネシア、パラオ諸島、マリアナ諸島、トラック諸島、マーシャル諸島、ギルバート諸島

(2) 海外公文書館の資料収集 1億9千9百万円  
(3) 遺骨の鑑定  
① 手掛かり情報のない戦没者遺骨の身元特定のためのDNA鑑定 3億1千万円  
② 戦没者遺骨の鑑定技術の研究・実用化検討 3億1千万円  
③ 分析施設(ラボ)における鑑定実施 1億円

4. 戦没者慰霊事業等 7億5千万円、R6補正 2億3千万円  
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費 2億1千万円  
(2) 慰霊碑・慰霊巡拝等  
① 政府建立慰霊碑の補修等 5億8千万円、R6補正 8千7百万円  
② 慰霊友好親善事業

2億7千万円、R6補正 1億2千万円  
④ 海外・国内民間慰霊碑の調査・移設等  
— 海外・国内民間建立慰霊碑調査等 1千万円、R6補正 3千1百万円  
— 国内民間建立慰霊碑の移設等(自治体補助) 1千万円  
⑤ 昭和三十九年度 4億5千万円、R6補正 5億9千万円  
(1) 運営経費・事業経費 4億4千万円、R6補正 2千9百万円  
(2) 昭和三十九年度経費 R6補正 5億6千万円  
6. 戦没者遺族相談員の謝金 1人当たり年額2万6千円

## 公務扶助料等年額一覧表

種類	現在額(年額)	令和7年4月より(年額)	増額分(年額)	対象遺族
公務扶助料	2,019,000	2,058,300	39,300	軍人(少佐まで同額)
特例扶助料	1,615,100	1,646,500	31,400	軍人(少将まで同額)
扶養加給	73,900	75,400	1,500	軍人
先順位遺族年金	2,019,000	2,058,300	39,300	軍属、一部軍人
同遺族給与金	2,019,000	2,058,300	39,300	準軍属
同特例遺族年金	1,615,100	1,646,500	31,400	軍属、一部軍人
同特例遺族給与金	1,615,100	1,646,500	31,400	準軍属

(注) 上記の年額表は、日本遺族会事務局による現時点での試算です。

## 平和の語り部事業

### 語り部育成各地の取組み

各地の精力的な語り部壁静夫副理事長の3人が講話を披露。藤巻理事長からは報道機関を活用した周知、慰霊祭への次世代参加と継承の意味が語られた。杉原部長からは戦地の父からの手紙や母の生きる覚悟と意思を通じた講話、眞壁副理事長からは沖縄戦への思い、鹿児島県の知覚特攻隊員の話が語られた。企画した静岡県大石功会長は、語り部事業を通して、遺族会を継承するため、県部事業の取組、沖縄甲斐の塔の紹介がなされた。その後、藤巻副理事長、杉原五十子女性部長、眞壁副理事長が挨拶した。同市市遺族会は「平和祈念の集い」を開催した。同市



他支部の語り部を学ぶ(講話者:山梨県の杉原五十子女性部長) = 11月28日、山梨県笛吹市で



語り部の重要性を訴える福森昌生会長 = 12月1日、三重県伊賀市で

遺族会福森昌生会長が、本会語り部事業推進の提案を受け企画したもの。内容を半年以上にわたって検討を重ね、知覚特攻隊員の話が語られた。企画した静岡県大石功会長は、語り部事業を通して、遺族会を継承するため、県部事業の取組、沖縄甲斐の塔の紹介がなされた。その後、藤巻副理事長、杉原五十子女性部長、眞壁副理事長が挨拶した。同市市遺族会は「平和祈念の集い」を開催した。同市

12月11日、新潟県高市遺族会青年部員2人が市内中学校で初めて語り部講話を披露した。同市は非核平和都市事業の一環として、市遺族会と連携し平和学習(出前講座)を実施してきた。長年事業をけん引している間島英夫会長(日遺ブロッカーアドバイザー)は、講話者の高齢化に鑑み、次世代の育成に取組み、昨年より青年部主体の「平和の語り部養成講座」を実施。活動を重ねてきた遺児等の戦争体験者の思いを学び、研鑽を重ね、長谷川稔さん、宮崎淳一さんが、妙高中学校1年生に講話を初披露した。

## 北方領土返還

### 全国大会を開催

「北方領土の日」の2月7日、令和7年北方領土返還要求全国大会が都内で開催され、政府や関係団体の代表が問題解決への決意を力強く訴えました。石破茂首相は訪米のため欠席し、ビデオメッ

セージを寄せ「戦後80年の今もなお領土問題が解決されず、ロシアとの間に平和条約が締結されていないことは遺憾だ」と述べた。また、元島民の募金再会を重点に置き、ロシアに交流事業再開を求める考えを示した。



### 終戦80周年 記念事業

# 語り部定期講話会を開催 千代田区内学生等を対象

戦争体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取組む遺族会の平和の語り部事業の普及、拡大を図るため終戦80周年記念事業として全国で講話座談会を実施する。本部は全国に先駆け千代田区内の学生等を対象とした語り部定期講話会を企画。社会的課題「戦争の記憶の継承」に応える団体である姿勢を示す広報の場とする。

終戦から80年を迎える。いや、今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

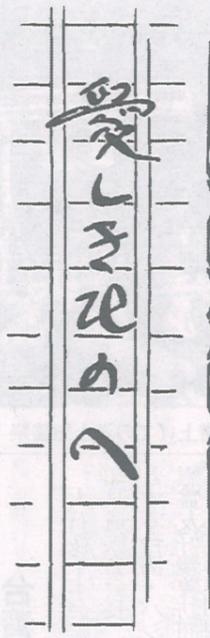
ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違

ない。今や国民の9割が戦後生まれとなり、貴道各社から「戦争の記憶の継承」が社会的な課題として提起され、国民的関心事となることは間違



## 力を合せて母を助けよ

昭和十九年十一月二十六日  
ボルネオにて戦死  
福岡県門司市大里出身三十七歳  
海軍上等水兵 新本 末義

大東亜戦争に際して皇恩の有難さを忘れるな。今の度の召集になり遺言として残す。

戦死の報を受けても必ずや事無し。

父の後をつぎ年端となり、必ずや立派に生長することを祈る。

母の教を良く守り、弟妹の面倒を必ず見よ。

亦妹弟は兄を父と思ひ兄弟仲良く母を助けて、

天皇陛下に忠義を忘れるな。事に秀記は今だ父の顔も良く知らぬ故に、

生長の折には良く話して聞かせ、どんな苦しい事が有っても

人の世話にならぬ様に。苦しい思ひ余った折には母と相談の上に、

母方の叔父に事を計かれ。

幸子、義和、政幸、秀記五人が力を合せて母を助けよ。

外に伝えず事なし。

照幸江

父ヨリ

【令和七年二月靖国神社頭掲示】

愛しきものへ

で、体験者の記憶と地域の歴史を青年部と共に取組む語り部を実施する。そこで本部は全国に先駆け、3月9日(日)午後1時から九段会館テラス4階日本遺族会会議室・桐において「体験者が語る東京大空襲の記憶から考える戦争と平和について」と題した講話会を実施する。千代田区・千代田区教育委員会の後援を受け、区内の学生、保護者、学校関係者等を対象とし、同事業の活用に向けた広報とする予定である。

第一弾として「全国各地で戦争と平和について考えよう!!」戦争体験者に当時の話を聞いてみよう」と題した全国共通企画を計画。小中高等学校で実施されている総合的学習の時間の利用に向け、遺族会の語り部の特色である多様な形態(講話型、対話型、体験型)

「体験者が語る東京大空襲の記憶から考える戦争と平和について」

講師：福居一夫氏(本部プロックアドバイザー、埼玉県遺族連合会副会長)

午後一時、場所：九段会館テラス4階日本遺族会会議室・桐

人数：50名メド

## 語り部講話実施

### 埼玉で行政が視察

12月18日、埼玉県志木市立志木第三小学校6年生を対象とした語り部講話が実施された。講師である福居一夫本部プロックアドバイザー(埼玉県遺族連合会副会長)は、長年同市に居住し、仕事柄、同市の学校職員等と関わる中で、戦没者遺児



小学生に自身の戦争体験を語る福居一夫氏 = 12月18日、埼玉県志木市で

との交流を続けている。講話内容は、幼児だった東京大空襲の体験から

始まり、焼け出され母の実家である志木市へ避難。父の戦死により一家の大黒柱として二人の幼子を育てるために仕事に追われた母への感謝が様々な体験談を通して語られた。

中でも東京大空襲で我が子を守りながら必死に避難する中で目にした女の子を生提案していた実母の思いを綴った体験が紹介され、人生そのものに強烈な影を落とす戦争の実相が伝えられた。

## 沖縄平和祈願慰霊大行進

### 語り部体験型へ参加者募集

日本遺族会は、沖縄戦終結の日である6月23日に、沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」への参加者を募集している。



摩文仁に到着した平和祈願慰霊大行進団 (令和6年6月23日撮影)

この事業の目的は、先の大戦で多くの人命が失われた沖縄戦を振り返り、砲弾降りしきる中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道程(ひめゆりの塔から摩文仁の丘まで)を体験し、平和を祈願することである。特に終戦80年の節目に、平和の語り部事業の体験型として、全国から組織の後継者である孫、ひ孫等の青年部世代が積極的に参加し、次世代へ戦争の記憶を伝承する語り部の活動者としての意識を高める機会としても

参加申込については、在住する各都道府県遺族会事務局へ。

## 九段短歌

作品をお寄せください。

選者 村田 信昌

青森県 田中 恭子

福島県 柴田 征子

千葉県 石橋 嘉子

群馬県 須賀 宏江

長野県 塩川 篤子

愛知県 高橋 園子

八十年を遺児としひたに生きて来しわれは願つなり切に平和を  
初日の出靖國の杜照らしを親子三代揃ひて誼す  
遺族会の「語り部」事業の推進に戦後八十年に遺族が真向かふ  
特攻の明日飛び立つ三角兵舎まどろむ間もなく父母へ遺書  
戦死せし父の箱の中になし誓の家に無言で帰る  
色褪せし軍事郵便のひらに記憶のそこひ父のおもかげ  
け

愛知県 高橋 園子

(選者)

## 地方だより

▼島根県 12月15日  
理事・評議員合同研修会 (18人)  
▼京都府 12月23日

令和6年度京都府戦没者遺族大会(304人)  
▼徳島県 1月11日  
第97回語り部事業(40人)  
▼三重県 1月14日  
三重県遺族会新年初会議 (35人)

▼長崎県 1月20日  
令和6年度長崎県遺族会研修会(150人)  
▼岡山県 1月21日  
令和6年度岡山県遺族連盟女性部・青年部研修会 (50人)